

環境配慮個票

事業名	農村地域防災減災事業	地区名	四万十1期	受益面積	33.0ha
関係市町村名	四万十市	予定工期	平成27年度～令和5年度		
総事業費	703,930千円	R3年度以降事業費	171,437千円		
総事業量	ため池 5箇所	R3年度以降事業量	ため池 1箇所		
マスタープランの区分	環境配慮区域	自然公園等の指定	無		
既存資料による希少種の情報の有無	有 (R2 環境調査資料)				
周辺の環境	<p>四万十市の“日本最後の清流”と称される四万十川下流側に位置する旧中村市地域は、後川や中筋川をはじめとする四万十川の支流が流れ、その流域や上流部の山間地帯に集落が見られる。水稻や果樹ほか、ショウガ、イチゴ、トマトなどの施設野菜、ナバナやシシトウなどの露地野菜など多品目の栽培が行われている。中村地域の森林面積は8割程度である。</p>				
地区の環境の特性	<p>▽田野川区域（山の神池）</p> <ul style="list-style-type: none"> 概況 山の神池は、中山間部の田野川左岸に位置し、谷地であるが下流が南向きで比較の日当たりが良い。 植物324種（内、希少種7種） カンアオイ属の一種、ミズオオバコ、ヒメノボタン、マルバノサワトウガラシ、コシロネ、ミズネコノオ、スズメノハコベ 昆虫110種（内、希少種2種） コガタノゲンゴロウ、ヤマトアシナガバチ 両生類（希少種2種） アカハライモリ、トノサマガエル 				
配慮すべき事項	<ol style="list-style-type: none"> 池内（湿地、浅場環境）の従来植物、動物への配慮 池内の浅場環境の保全 池周辺の樹林地への配慮 工事中の樹林地へ進入を極力回避 堤体の従来植生への配慮 堤体上に生育する植物の保護及び工事後の外来種侵入の抑制 特定外来生物への配慮 法律の順守及び生物の他水域への拡散、流下の防止 移植等特別な配慮の必要性の検討 新たに現地確認された希少種の移植等の必要性、可能性を検討 				
配慮方針	<ol style="list-style-type: none"> 極力環境に変化のないと思われる位置に土のうや盛土等で仮締切を行い、ある程度の湛水域を設け水生動植物や魚介類を現在の位置で保全する。 池周辺の植林地を極力残す施工を計画する。 現地堤体の表土を工事中保管しておき、堤体盛土の表土に使用する。 池の水を抜く際は排水口に網を設置するなどして、特定外来生物の地区外への拡散、流下を防ぐ。 今後の詳細測量設計時工事期間中に新たな希少種が確認された場合は、移植等の必要性、その可否を検討する。 				